

幼児と保護者の自然環境意識の関連

○爾 寛明 城ヶ端 初子 北川 治（佛敎大学）

1. はじめに

幼児は自然環境から学びとるものがきわめて大きく、自然環境は心身の健全な発育に重大な影響を及ぼす。しかし、現在、幼児を取り巻く自然環境の変化は激しく、自然を体験し、自然から学ぶ機会も激減の傾向にある。日々の暮らしのなかで幼児は保護者を初め、家族、友人そして幼稚園の教諭など多くの人々とのかわり合いのなかで生活しており、それらの人々の自然環境意識と行動が幼児に及ぼす影響も大きいと思われる。特に、幼児と最も生活時間の多い母親の自然環境意識と行動が幼児の自然環境意識を決定づけると考えられるのである。

そこで、今回、保護者のうち母親の自然環境意識と幼児の意識の関連を分析し、一つの結果を得たので報告する。

2. 研究目的

保護者（母親）の自然環境意識と幼児の意識の関連を明らかにすることから、今後の幼児ならびに保護者の環境教育に寄与することを主な目的とする。

3. 研究方法

1) 調査対象

B大学付属幼稚園児（年長・年中組）とその母親141組を対象とした。有効回答数は127組であった。

2) 調査方法と内容

(1)保護者に対しては園の保護者会に出席した母親に質問紙による調査を実施した。調査項目は①環境保護、②資源保護、③自然体験、④家庭教育に関するものである。

①環境保護についての意識

- スプレー缶入りの製品を買うとき、封入されているガスの種類の表示を見たことがあるかどうかを問う。
- 古くなったてんぷら油の処理方法を問う。
- 流し台から細かい生ゴミが排水口に流れ込まないように努力しているかどうかを問う。
- 洗濯の洗剤の種類（合成洗剤・石鹸）を問う。
- 環境保護のために自動車の使用を控えたことをあるかどうかを問う。

②資源保護についての意識

- 洗濯機が故障した場合の処置を、3年間使用、修理費3万円という条件のもとで問う。
- 古新聞・段ボール紙の処理方法を問う。
- テーブルに醤油をたらしたとき、ティシュペーパーで拭くか、台ふきんで拭くかを問う。
- 資源保護のために缶ビールをさけて瓶ビールを買ったことがあるかどうかを問う。
- 資源保護のために紙おむつをさけて布おむつを使ったことがあるかどうかを問う。

③自然体験についての意識

- 一番最近の休日に家事以外に何をして過ごしたかを問う。
- 春の一日の休日に、時間に余裕があれば子どもをどこに連れていくかを問う（8者択2）。
- 幼児期の体験として必要と思うものを問う（7者択3）。

④家庭教育についての意識

家庭教育・しつけなどに於て環境保護、資源保護を意識して行っているかどうかを問う。

(2)幼児に対して、一対一面接法で次の質問を行った。

①環境保護についての意識

- 写真（図1）を呈示して、その写真は何を写した写真であるかを問い、捨てられているゴミに着目するかどうかを見た。
- 写真の中のゴミに着目させた上で、そのゴミの処置を問う。

②資源保護についての意識

写真（図2）の様な破れて中の綿が出ている縫いぐるみを見せて、その縫いぐるみの処置を問う。

③自然体験についての意識

調査日直前にあった休日の行動を問う。

4. 結果と考察

各設問毎に得点化して表1のような結果を得た。

保護者の得点の平均値8.78（総得点15）、幼児の得点の平均値は4.65（総得点8）である。保護者の平均値より高い得点（8以上）の被験者を上位群とし、平均値

より低い（7以下）得点の被験者を下位群としたとき、各々の群に対応する幼児の平均値は上位群4.85、下位群4.35であった。平均値の差の検定（t検定）を行った結果、有意水準0.1%で差がみられた。さらに、同様な方法で環境保護、資源保護、自然体験ならびに家庭教育の分野別の検討を行った（表2）。

1) 環境保護

この分野の保護者の総得点は5である。保護者の得点の平均値は2.87で、得点3以上を上位群、2以下を下位群とした。

各々の群に対応する幼児の得点の平均値は、上位群2.66、下位群2.49であった。

この分野については有意な差は認められなかった。

このことは保護者の意識は比較的幼児に反映されにくい分野であることを示している。

2) 資源保護

この分野の総得点は5である。保護者の得点の平均値は2.92で、得点3以上を上位群、2以下を下位群とした。さらに、各々の群に対応する幼児の平均値は上位群1.75、下位群1.56であった。この分野では1%で有意差がみられた。

この結果は、物を大切にすることの教育は機会が多く比較的具体的な形で教えられる分野であることの反映であると考えられる。

3) 自然体験

この分野の総得点は4である。保護者の得点の平均値は2.47で、得点3以上を上位群、2以下を下位群とした。さらに各々の群に対応する幼児の平均値は、上位群0.43、下位群0.31であった。

この分野は5%で有意差がみられた。

この結果は、幼児は母親と共に行動する年齢であり、

母親の自然環境意識と行動がそのまま幼児に直接影響を与えていることを示しているといえる。

4) 家庭教育

この分野の総得点は1である。保護者の得点の1点を上位群、0点を下位群とした。さらに各々の群に対応する幼児の総得点の平均値は、上位群4.91、下位群4.38であった。

この分野は0.1%で有意差がみられた。

この結果は家庭での教育がそのまま幼児の意識に影響を及ぼすことを示していることと考えられる。

以上の結果の主な部分をまとめ、考察を加えると次のようになる。

1) 母親の自然環境意識が幼児の意識に反映されることが理解できる。

2) 環境保護については、親の意識が幼児に反映されにくい。これは、家庭教育において、幼児の行動の禁止をしても、その禁止の理由まで指導しないことの反映であると考えられる。

5. おわりに

母親の自然環境意識が幼児の意識に及ぼす影響は大きいことがわかった。それ故、幼児の環境教育には母親の環境教育が大切なのである。また、幼児の環境意識には、母親だけでなく、幼児を取り巻く人々の影響も受けていると考えられるので、このような人々の環境教育も必要であると考えられるのである。



図1. 幼児の環境保護意識の調査に用いた写真



図2. 幼児の資源保護意識の調査に用いた縫いぐるみ

表1. 各分野別の得点

被験者	環境保護	資源保護	自然体験	家庭教育	計
保護者	2.87 (5)	2.92 (5)	2.47 (4)	0.50 (1)	8.78 (15)
幼児	2.60 (4)	1.69 (2)	0.37 (2)		4.65 (8)

注: () 内は総得点を示す

表2. 保護者の上位群・下位群の平均得点と対応する幼児の平均得点

被験者		環境保護	資源保護	自然体験	家庭教育	計
保護者	上位群	3.45	3.56	3.13	1.00	10.03
	下位群	1.88	1.67	1.83	0	6.97
幼児	上位群	2.66	1.75	0.43		4.85
	下位群	2.49	1.56	0.31		4.35